

◎令和6年度 東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

今年度で10回目となる東大和市社会福祉協議会主催の、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練」が、06月22日にハミングホールにて実施されました。

センターは「東大和市地域防災計画」により、大規模災害の発生時、市と社協とが連携して、市民会館(ハミングホール)に設置することになっています。さらに社協は市と、「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結し、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」(最新版:R6. 1. 9)を作成して、センターの円滑な設置・運営、災害復興を目指しています。

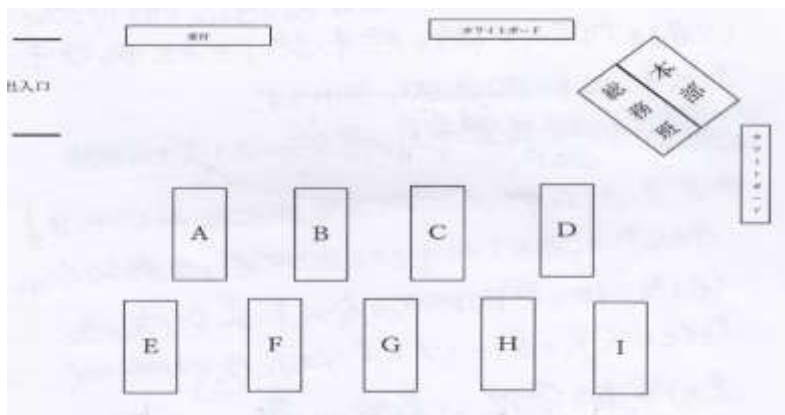
今年度は、スタッフに約50名、市民ボランティア前半に約50名で訓練が実施されました。特に市民ボランティアに多くの若い方の参加があった事は今後の活動に期待を持てる事と思います。今回は訓練終了後、能登半島地震 穴水町ボランティアセンター派遣報告が東大和市社会福祉協議会総務係;窪田様から「現地から見た被災地—私たちにできること—」として講演がありました。



【前半(9:00~11:45):本部要員を含め参加者50名

災害ボランティアセンターの設置、被災者からの電話相談受付】

★災害ボランティアセンター設置図(レイアウト);(小ホール)



スタッフの受付



★あいさつ、流れの確認



★被災者支援班の結成

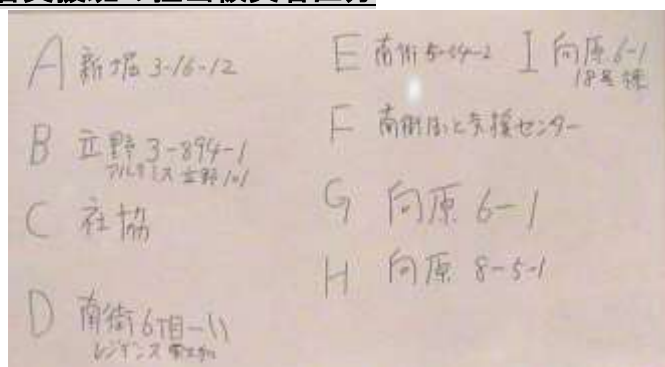
ボランティア活動時の各種用具の支給状況



ボランティア活動時の用品を装着後の状況



被災者支援班の担当被災者区分



★被災者からの電話相談受付

各班毎の担当被災者場所及び被災状況(各班共に担当スタッフは4名)

10時より被災者より電話で各班にボランティア出動要請があり、

●「ニーズ(電話)受付票」

の書式に従い被災者の要請内容を把握して同書式に記入後、スタッフ内で情報を共有化して、現地調査に向かう。

A 班

④ 自宅	・ペット、片付け、情報提供 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】一輪車1、ダンボール、ほうき、ちりとり、瓦適量、その他表示物適量
------	---



B 班

④ アルテミス立野	・障害者親子、自宅片付け、情報提供、清拭 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、その他表示物適量
-----------	--



C 班

⑥ 社塾	・若者、夫婦、片付け(感染症要薬入れる) 【用意】会議室内をちらかして被災を再現 【物品】スコップ1、土のう2、植木鉢等
------	--



D 班

⑤ 自宅	・障害者、片付け 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、一輪車1
------	--



E 班

① 南街区自治会集会所	・高齢者、認知症、情報提供 【用意】集会所内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、一輪車1
-------------	--



F 班

③ ほっと支援センターなんがい	・高齢者、ひきこもり、片付け 【用意】施設内の部屋を使用し被災を再現 【物品】瓦、一輪車1
-----------------	---



G 班

⑩	ハミングホール楽屋	・外国人、片付け、情報が得にくい 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】一輪車1、瓦適量、その他表示物適宜
---	-----------	---



H 班

⑪	よつわ自治会集会所	・妊婦 【用意】集会所内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、一輪車1、妊婦体験セット、 その他表示物、おもちゃ
---	-----------	--



I 班

⑫	自宅	・高齢者、高層、片付け 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】机?その他表示物適宜
---	----	---



★訪問調査状況(被災者役を訪問。「ニーズ(現地調査)受付票」記入)

C 班(若者夫婦「感染症要素」;家具、瓦の散乱)



E 班(高齢者、認知症;家具、瓦の散乱)



F 班(高齢者、引きこもり;家具等の散乱)



「ニーズ(現地調査)受付票」完成



完成した「ニーズ(現地調査)受付票を本部への提出



★本部・総務班

情報収集・発信、活動集計など、臨機応変の対応。



【後半(12:45~16:30):本部要員を含め参加者約100名
ボランティア役の市民ボランティアによる被災者支援】

★被災地に赴くボランティアの受付



★集合、あいさつ、訓練説明(大ホール)



★現地への送り出し
大ホールから各班毎に退出



各班毎に必要なボランティア支援機材の受け取り



★ボランティア活動支援班の訪問作業実施状況(被災者役を訪問。「活動報告」の作成)

C 班(若者夫婦「感染症要素」;家具、瓦の散乱整理)



E 班(高齢者、認知症;家具、瓦の散乱整理)



F 班(高齢者、引きこもり;家具等の散乱整理)



★活動終了後の各班毎での個別反省会

各班毎に「活動報告」の最終確認及びボランティア訓練の反省会を開催した。

A 班

参加者(ボランティア;6名、スタッフ;4名)



B 班

参加者(ボランティア;6名、スタッフ;4名)



C 班

参加者(ボランティア;4名、スタッフ;3名)



D 班

参加者(ボランティア;5名、スタッフ;3名)



E 班

参加者(ボランティア;6名、スタッフ3名)



F 班

参加者(ボランティア;5名、スタッフ;2名)



G 班

参加者(ボランティア;5名、スタッフ;2名)



H 班

参加者(ボランティア;7名、スタッフ;3名)



I 班

参加者(ボランティア;5名、スタッフ;5名)



★避難所支援講習

避難所での支援活動としての各種活動説明がありました。



東大和市で使用の避難所仕切りテント



ホットタオルの作り方説明



「お起き上がり」の介助方法

介助者の膝を利用する方法



毛布ガウンの利用方法



足湯の作り方(少量のお湯で可能)



避難所での高齢者の対応方法の考え方紙芝居
高齢者の対応方法が重要



★全体反省会



★総評



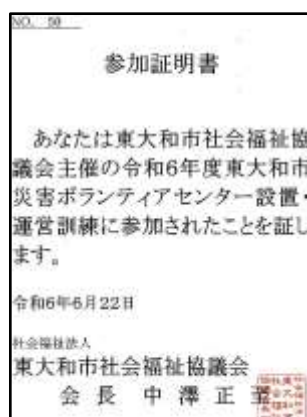
★能登半島地震報告(P12・13)



★参加賞



クリアファイル



以上

★能登半島地震 穴水町災害ボランティアセンター派遣報告

令和6年6月22日 東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練
能登半島地震 穴水町災害ボランティアセンター派遣報告

現地から見た被災地 - 私たちにできること -

東大和市社会福祉協議会 総務係：窪田信太郎

穴水町について

- ・人口 7,212人
- ・世帯 3,448世帯
- ・高齢化率 50.1%
※令和6年4月1日現在

石川県の能登半島中央に位置する町で、能登郡に所属。のと鉄道、国道249号線が通じるのと能登半島の拠点であり（金沢から約80分）、輪島市、珠洲市、能登町に隣接する分岐点である。主な特産品は牡蠣類、ナマコ、メバル、クロタイ、栗など。



令和6年能登半島地震被災状況

- ・発災 令和6年1月1日（月）午後4時10分
- ・震源 石川県能登地方
- ・震度 マグニチュード7.6（震度7）
※穴水町は震度6強を観測

- ・犠牲者20人、緊急搬送372人
- ・避難者数2,722人
- ・家屋の被害 6,285件
※倉庫や蔵含む



現地の様子



穴水駅構内 赤判定の住宅

現地の様子



穴水大宮 住宅に押し潰された車

穴水町災害ボランティアセンター

- ・開設 令和6年1月10日
- ・場所 穴水町社会福祉協議会（穴水町さわやか交流館ブルー内）
※避難所も兼ねており、避難生活を送っている方もいる



災害ボランティアセンターの役割

・東大和社協の派遣期間 令和6年3月31日～令和6年4月6日

<p>①ボランティア受付 ボランティア登録等の確認</p> <p>②ニーズ受付 電話による相談が中心だが、直接訪ねてきてくださる場合もあり</p> <p>③現地調査 被災地の状況やゴミの量、被害の状況、土砂の発生状況</p> <p>※東大和市社会福祉協議会より派遣されたボランティアの受け入れと調整を行います。</p>	<p>④マッチング（調整） 作業内容に合わせて人数を調整</p> <p>⑤送り出し 作業のドキュメント等の確認</p> <p>⑥活動後の報告 ボランティアに作業の振り返りや感想を聞き、課題や今後の活動の方向性を話し合います。</p> <p>※穴水町社会福祉協議会から派遣されたボランティアの受け入れと調整を行います。</p>
---	--

ニーズ（相談）の内容と現地調査

相談件数は1日約30件。内容はゴミや不要物の運び出しという相談が多い。被災住宅の入り込みが多いため、引っ越しの相談も増えている。現地調査時はゴミを運び出すために必要な人員や軽トラの台数、作業が通行できる状態かといった部分も調査する。



現地調査で見えてくる被災地の現実

《建物について》
地域の特徴上、建築年数が経過している建物が多い。新しい建物は被害が少ない印象。



現地調査で見えてくる被災地の現実

《道路について》
崖壁や土砂が崩れ道路が狭くなっている場所が多い。また、片側が通行不可能になっている道路も多数。



現地調査で見えてくる被災地の現実

《危険と隣り合わせの現地調査》

家屋や住宅は被災状況に応じて行政の対応が決められる。中でも最も危険な**黄色判定**はボランティアの立ち入り不可であり、建築士等の専門家による調査が優先される。



10

現地調査で見えてくる被災地の現実

《危険と隣り合わせの現地調査》

黄色判定の家屋であっても実際に現地調査をしてみないと危険度がわからない。現地調査は非常に重要な役割。



黄色判定であっても、中には破壊して見せかけている。

11

現地の人と接して感じたこと

《復興の遅れ》

3ヶ月経過しても通行不可能な道路が多い。TVでは復興しているという映像が報道されたが、実際はまだまだ困っている人が多い。

《人と人が繋がることの大切さ》

行政や民間の垣根なく復興に取り組んでおり、社協と行政が定期会合を行っている。また、**住民同士も顔の見える関係**ができており、**自治会長や地元のキーマン**が活躍し助けあっている。

《前向きな方が多い》

自身が被災しているにもかかわらず、**災害ボランティアセンターでボランティアとして活動している方が多い**。力仕事以外にも、自分にできることで復興支援をしている。

12



もし東大和市が被災したら・・・

13

自分に何ができるのか

今まで災害ボランティアと聞くと、力作業が求められると感じていました。しかし現場では自身が被災しているにもかかわらず、自分にできることで被災者支援をされている方が大勢いました。



14

自分に何ができるのか

被災から3か月経過して初めて災害ボランティアセンターに相談がある方も多かったです。その多くは「近所の人に教えてもらった」と話していました。また、地域の人に助けを求められない人に対してのニーズ調査も重要です。



15

終わりに

首都圏に住んでいると、「自分は大丈夫」という思いを持ってしまいます。しかし、災害はいつ襲ってくるかわかりません。日頃から災害に備える事は大切ですが、もし自分が被災したら何ができるだろうという視点も必要になってくると感じました。

また、現在も能登半島は復旧が思うように進んでおらず、大変な状況にあります。そのことを忘れず、自分にできることで被災地への復興を支援していただけると幸いです。



災害義援金について
(石川県公式HP)



ボランティア情報について
(東京ボランティア・市民活動センターHP)

16

R6年度災害ボランティアセンター設置・運営訓練全体進行表

R6年度災害ボランティアセンター設置・運営訓練全体進行表

時刻	内容	会場	担当者	備考	会場	担当者	備考
9:00	受付	あいさつ、流れの確認、参加者紹介等。	小ホール		セッティング	※会場に集合 -各場のセッティングを行う。	
9:45	災害VC設置	指示物、物品、資料集束等を設置。	小ホール				
10:00	スタッフ （被災者支援班）	電話で被災者からの相談受付、訪問先を地図等で確認。 ※4人1組に分かれ、各組1件の相談対応。 ※訪問履歴を平紙で行うため、電話で問い合わせをできる部 分は質問取りを行う。	小ホール		電話相談	-被災者としてVVOへ電話し、シナリオに依 り対応を行う。 -被災者スタッフへ伝え、訪問を受ける 処置をする。	各地
10:30	訪問調査	各組、1ケース現地訪問し、調査する。 ※訪問先では担当の人が主体的に対応する。	各地		相談	-スタッフの訪問を受ける。	
11:45	ニーズ受付業務作成	訪問終了後、「ニーズ受付票(様式あり)」を作成。	小ホール			※お時間があまる場合はハミングホールに集まりにきていただく ことも可能です。	
11:45~ 12:45	引き継ぎ	ボランティア支援班(今回は本隊)へ、相談者の情報をニーズ受 付票をともに引き継ぐ。	小ホール				
12:45	受付	お昼休憩	各自		お昼休憩		
12:45~	スタッフ （被災者支援班）	受付のサポート等(G・Hグループ)。	ホワイエ				
13:15	関係・あいさつ	中澤会長、住吉会長あいさつ。	大ホール		関係・あいさつ	中澤会長、住吉会長あいさつ。	
13:20	訓練開始	清注意、アツチング、送り出し等。 ※ホワイエへ移動。	大ホール ホワイエ		訓練開始	清注意、アツチング、送り出し等。 ※ホワイエへ移動。	
13:50	送り出し	組ごとに分かれつつ、ホワイエへ移動する。 現場に向かうボランティアの方々に注意事項等を伝える。 ケースごとに必要な物品をわたす。	ホワイエ		活動開始	被災者宅に向かう。	
14:00※		※お時間があまる場合は各事例に同行し、様子を見ていただくことも可能です。					
15:30 ※							
15:40	飯沼反省会	チームで事例に関する反省を行う。 アンケートを記入する。			被災者支援班	ボランティア活動を行う。	ハミングホール
16:00	主催 （飯沼班）	全体反省会 飯沼(飯沼班) 飯沼半島被害報告 職員から飯沼半島被害報告の報告を行う。			活動終了	ハミングホールに戻る。	
16:30	終了						

※14:30~15:30にハミングホール会議室にて避難所支援講習を開催いたします。お時間のある方はお立ち寄りください。

令和6年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

タイムスケジュール【午前】

開催日：令和6年6月22日（土）

会 場：ハミングホール

市内各所

- 9：00 スタッフ役受付開始
当日の流れ等説明・設置準備
- 10：00 相談電話受付開始
- 10：20 被災者宅の訪問と調査
- 11：00 書類作成
- 11：45 ～お昼休憩～

<メモ>



	会場	内容
①	南街地区自治会集会所	・高齢者、認知症、情報提供 【用意】集会所内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、一輪車1
②	自宅	・高齢者、高層、片付け 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】机?その他表示物適宜
③	ほっと支援センターなんがい	・高齢者、ひきこもり、片付け 【用意】施設内の部屋を使用し被災を再現 【物品】瓦、一輪車1
④	アルテミス立野	・障害者親子、自宅片付け、情報提供、清拭 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、その他表示物適宜
⑤	自宅	・障害者、片付け 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、一輪車1
⑥	社協	・若者、夫婦、片付け(感染症要素入れる) 【用意】会議室内をちらかして被災を再現 【物品】スコップ1、土のう2、植木鉢等
⑦	よつわ自治会集会所	・妊婦 【用意】集会所内をちらかして被災を再現 【物品】瓦適量、一輪車1、妊婦体験セット、 その他表示物、おもちゃ
⑧	自宅	・ペット、片付け、情報提供 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】一輪車1、ダンボール、ほうき、ちりとり、瓦適量、その他表示物適宜
⑨	ハミングホール楽屋	・外国人、片付け、情報が得にくい 【用意】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】一輪車1、瓦適量、その他表示物適宜
⑩	ハミングホール会議室	・避難者、物資の整理、足湯、遊び相手、避難所用テント、傾聴活動 【用意】会議室を使って避難所を再現 【物品】ブルーシート、毛布、カーペット、ダンボール ※たまちゃん講座 Or カエルキャラバン 紙食器、起き上がり、足湯等

被災者役の動き

<午前>

1. 災害ボランティアセンター(下記番号)へ電話する。

- 相談者事例の1つの役となり相談。発信は各自携帯、FAX。
- ※電話番号は各事例に記載(事例は10件)。
- ※10件の被災者役が順次相談。話し中の場合は時間をおいて再度かける。



2. 困っている内容を電話で相談する。

- 事例に基づき困っている内容を被災者支援班に伝える。
- ※被災者宅の実際の住所と訓練用の電話番号を伝える。



3. 被災者支援班に訪問してもらい、より詳しく調査してもらう。



<午後>

4. ボランティアを受け入れ、支援を受ける。

- 午後の初めにボランティア役の受付やオリエンテーション等があるため、その間はハミングホールで見学可。



ハミングホールに移動

5. 振り返りに参加する(感じたことなどをまとめる)。

- 自分が相談したことが活動(調査)に反映されたか?
- 困っていることを受け止めてもらえたか?
- 活動自体に問題はなかったか? 等

令和6年度

東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練資料

開催日：令和6年6月22日（土）

会 場：ハミングホール

市内各所

1 災害ボランティアセンターとは？

- ①地震などで被災し、助けを必要とする人と、ボランティアとして被災地の支援をしたい人をつなぐ機関です
- ②災害時に臨時的に設置されます。
- ③被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、災害による「困りごと」にボランティアとともに対応します。

2 訓練のねらい

- ①まずは知ってください。
- ②「助けられる側」から「助ける側」になることを考えましょう。
- ③日頃からのつながりを大切にしましょう。

3 今回の訓練の被害想定（市防災計画より）

【被害の概要】 ※市防災計画をもとに想定

項 目	内 容
震源・震度	多摩直下 最大震度6強
発生日時	令和6年6月15日（土）午前5時00分
人的被害	死亡：59人（内要援護者27人）、負傷765人、
建物被害	全壊：774棟
火災被害	出火：3件、焼失：403棟（消火作業終了）
避難者	避難者（1日後）16,689人
ライフライン	停電率9.0%、通信不通率2.3%

4 内容とタイムスケジュール

- ・実際の災害を想定し、「お芝居」で被災者支援を体験します。
- ・実際の災害時に使用する「マニュアル」に基づいてボランティア活動を行います。

12:45 ボランティア役受付開始

…受付票に記載、ボラ保険の加入の確認、名札等配付

13:15 あいさつ、災害ボランティアセンター説明

13:50 オリエンテーション・マッチング・送り出し

※オリエンテーション…ボランティア活動上の注意等を聞く

※マッチング…支援を必要とする被災者の紹介

※送り出し…数名一組でグループとなり、リーダーを決め、資機材を持って
現地へ移動

→市内各所へ移動しボランティア体験

…各被災者役の家（を想定した場所）で片付け等の活動

15:30 ハミングホールへ再集合、反省会

16:00 全体反省・講評（被災者役も集合）

…センターに戻り反省

16:15 能登半島地震派遣報告

16:30 閉会

※時間は見込みです。進行により前後する場合があります。

※「被災者役」は別途進行を確認します。

※会議室で避難所ボランティアを体験できます。ぜひお立ち寄りください（14:30～）。

<メモ>



ボランティア活動に行く前に**必ず**お読みください！

(1) ボランティア活動の心構え

- ボランティア活動にはまずご自身の健康が何よりです。けがなどがあると被災者、被災地にご迷惑をかけます。下記を参考にセルフチェックをお願いします。
 - 熱やのどの痛み、頭痛などの症状がない
 - 血圧が安定している
 - 腰やひざなどの痛み、違和感がない
 - 必要な常備薬を持参している
 - 持病がある場合、コントロールできている
 - アルコールが入っていない
 - その他体調に不安が無い
- 活動先では、依頼者の気持ちを尊重してください。自分に合わせて活動するのではなく、依頼者の気持ちや依頼者の暮らしに合わせて無理強いしないように活動してください。

(2) 活動するときの注意

- 依頼者のお宅／避難所に着いたら、「東大和市災害ボランティアセンターから来ました」と伝え、依頼者に「ボランティア依頼者の皆さんへ(様式10)」を渡し、作業内容の確認をしてください。また、室内への入室等は依頼者の許可を得てください。
- 以下の場合、必ず災害ボランティアセンターへ連絡してください。
「ケガをした時」「体調が悪くなった時」「活動が危険または手に負えないと判断される時」「依頼された以外の活動を頼まれた時」「判断に困った時」

東大和市災害ボランティアセンター
☎042-564-0035



- 活動中は、災害ボランティアセンターから来たボランティアとはっきり分かるよう、ガムテープに名前を書いて、見えやすい位置に貼ってください。
- 活動は安全第一です。十分な休憩を取り、無理のないようにしましょう。(1時間に1～2回10分程度)
- 体調管理は自己責任で行ってください。(水分補給や手洗いうがいはこまめに、行いましょう。)
- 安全には十分注意してください。建物内でも危険な所は、土足でよいか確認してください。また、降雨等への対応、二次災害の可能性を考慮してください。
- 少しのケガでも大事を取りましょう。大きなけがをした場合は、救急車を呼ぶなどしてください。

(様式8) (裏)

- 危険な作業、企業の営利行為、政治的、宗教活動への手伝いは断ってください。
- 謝礼(金品)は受け取らないでください。(お茶やジュースくらいであれば気持ちよく頂きましょう。)
- 昼食をはさんでの活動が見込まれる場合は、各自で昼食を調達してください。
- 必ず2人以上で行動してください。持ち場を離れる場合はリーダーへ報告してください。
- 必要なものかゴミかどうかは依頼者にきちんと確認してください。貴重品や重要書類等も確認し複数名で対応してください。ゴミは分別をきちんと行ってください。
- 活動中は、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいをお願いします。時に傾聴や声かけが主要な活動になる場合もあります。
- 活動先でのカメラ撮影・撮影した写真を許可なく SNS 等へ掲載するのは控えてください。
- マスコミ等からの取材に対しては、不確実な情報は話さないでください。マスコミ報道の影響力は大変大きく、間違った情報が流れると混乱の原因になります。

(3)活動が終わったら

- 活動終了時間は4～9月が16:00、10～3月が15:30までとなります。事故を防ぐためにも時間厳守してください。
- 依頼者に、作業終了の確認をお願いしてください。
- 翌日以降の活動継続を希望されるかどうかを、依頼者に確認し、追加希望があれば、活動報告に日時、内容、期間、氏名を必ず追記してください。
- 災害ボランティアセンターに戻り、資機材の返却、報告書の提出、活動の報告を行ってください。



東大和市災害ボランティアセンター
東大和市向原6-1ハミングホール内
☎042-564-0035

災害ボランティアセンター設置・運営訓練 参加者募集

本年1月1日に能登半島地震が発生しました。被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。今後長期的に支援が必要となる可能性があり、現在、被災地域では、ボランティアセンターを中心としてボランティア活動が始まっています。

東大和市でも大きな災害が起こる可能性があります。災害に備え東大和市社会福祉協議会では、毎年災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行っています。

今年度の訓練は、災害ボランティアセンターの役割についてお伝えするとともに、実際に災害時にどのようなボランティア活動が行われているかを体験していただく訓練です。

多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。



日 時 令和6年6月22日(土) 午後1時から4時30分まで

会 場 ハミングホール

対 象 者 市内在住、在勤、在学の方

参 加 費 無料

定 員 50名

申 込 み お電話または申込みフォームからお申し込みください。

※締め切り5月31日(金)

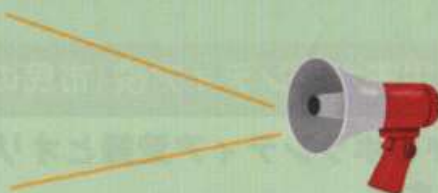
問 合 せ 東大和ボランティア・市民活動センター

TEL 042-564-0035



申込みフォーム

災害ボランティアを 体験できます！



令和6年度

東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

本年1月1日に能登半島地震が発生しました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。東大和市でも大きな災害が起こる可能性があります。そのため、私たち一人ひとりが防災について考える必要があるのではないのでしょうか。

災害に備え東大和市社会福祉協議会では、毎年災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行っています。災害ボランティアセンターは、災害時に設置され、ボランティア活動を円滑に進めるための拠点となります。

今年度の訓練は、災害ボランティアセンターの役割についてお伝えするとともに、実際に災害時にどのようなボランティア活動が行われているかを体験していただく訓練です。多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。

日時 令和6年6月22日(土)13:00から
(受付12:45から)

会場 ハミングホール及び市内各所

参加費 無料

対象 市内在住、在勤、在学の方

定員
50名

※詳細は本会ホームページを
ご覧ください。



主催：東大和市災害ボランティアセンター協議会
申込み・問合せ：東大和ボランティア・市民活動センター

(東大和市社会福祉協議会内)

TEL 042-564-0035

FAX 042-564-3680

※6月7日(金)までに電話またはQRコードの申し込みフォームからお申し込みください。



申し込みフォーム

○訓練のながれ（災害ボランティア役（市民の皆さん）が行うこと）

※訓練前に Web からボランティア登録とオリエンテーション動画の視聴を行っていただきます。

○12:45 ハミングホール受付開始

○13:00 ボランティアセンターの説明（動画視聴）



○13:15 開会・訓練開始

災害時のボランティア体験

被災者の紹介など（マッチング、送り出し）



被災者（役）のお宅または避難所（想定場所）へ移動
ボランティア活動を体験



ハミングホールへ戻り、振り返り



○16:30 講評・閉会

参加者の方には、修了証とお土産をご用意しています！

※市民の方にはボランティア役もしくはスタッフ役として訓練に参加していただきます（スタッフ役は、18歳以上の方のみとなります）。なお、スタッフ役の内容については、お問い合わせください。

○災害ボランティアセンターとは？

地震などで被災し、助けを必要とする人と、ボランティアとして被災地の支援をしたい人をつなぐ機関で、災害時に臨時的に設置されます。被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、市民の皆さまの災害による「困りごと」にボランティアとともに対応します。

【お願い】

◆動きやすい服装でご参加ください。飲み物は各自ご用意をお願いします。

◆ハミングホールからボランティア活動先（市内各所）には自転車又は徒歩での移動となります。



会場までのアクセス

